

<仙台国税局長賞>

## 災害から学んだ税金

南相馬市立小高中学校 3年 佐久間 天音

私が税金について興味を持つようになったのは、二〇一一年三月十一日に発生した、あの東日本大震災がきっかけだった。

東日本大震災。その大きな地震災害は、あまりにも多くのものを奪っていった。木はなぎ倒され、道路は道としての役目をしていず、地面にはひびさえ入り、住んでいた家は津波によって流され、原型をとどめていないものまであった。今まで共に築きあげてきた思い出あふれる私たちの居場所を、あのたった一瞬でいとも簡単に流していった。その恐怖と悲しみは、あれから九年経った今だって忘れられない。

小学五年生の頃、テレビで放送されていた東日本大震災の特集を母親と見ていたときだった。あれからもう五年も経つのか、と時の流れを感じながら、ふと疑問に思った。こうして倒壊した施設や道路、流されてしまった家屋などはどのように修復されたのだろうか、と。隣に座りぼんやりと、あの頃の寂しさを思い出すようにテレビを見つめる母親にその疑問をなげかけてみると、「それは税金の話になってくるよ」と話し始めてくれた。東日本大震災の直後、現地に赴き救助活動、捜索活動を行った自衛隊や全国の警察、消防の方々の派遣費用や給料は、すべてが税金によってまかなわれていること、被災地に届けられた救援物資のうち、自治体があらかじめ備蓄していた非常食などは、税金で購入されたものがほとんどだったこと。また、津波で流された学校や市役所などの公共施設の建設などの被災地の復興にも国費が使用されることや、震災のみならず他の災害があったときにもそのように税金が使われることを、母親は丁寧に説明してくれた。国や地方の補助金によって、便利な生活を送ることができていることに気付かされて、税金を納めてくれている方々へ感謝の気持ちがあふれ、もっと早く知っておくべきだとも思った。

多くの損害を生み出した東日本大震災。それにより、税とは国民が手を取り協力し

あい、それぞれが全員の幸せを実現するためのシステムであり、今までもこれからも災害の復興のみならず、困っている人々を支えることにもつながるということを改めて感じ、これからの社会を生きていく一人として深く考えさせられた。これまでの私は「税」というと、消費税や所得税、住民税など、何かにつけて取られてしまう、というマイナスのイメージだらけだったが、税金は私たちの生活を支えてくれているのだと知ってそのイメージは大きく変わり、税に感謝するようになった。日本の明るい未来をこれから築いていく国民の一人として、税についての学びを深め、大人になり社会に出るようになった際には、しっかり納税して社会に貢献しようと思います。